

教務だより

2017年7月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

受験の夏、不得意克服のチャンス！

茗溪塾塾長 宇野雅春

高原のさわやかな涼風の中で思いっきり勉強するって最高！というちょっと生徒はしらけるみたいです。どちらかといえば、眠いのを我慢してゴリゴリに詰め込まれるのが合宿というイメージがやはりあるようなのです。確かに勉強がきつめではありますが、「楽しかった」という感想の方が圧倒的に多いのです。「集中」という点では大きな成果を作りつつ楽しい…！「自分たちで取り組む」から「自分で取り組む」が「合宿」や短期集中の精神です。初期のころは、20日分のテキストが4日で終わってしまったということや、合格実績が合宿を始める前と後では歴然と違っていたというのが、ここまで続いてきている理由でしたが、今では生徒が学習へ意欲を持つ「やる気作り」の一環として次々と新しい試みを入れています。交通費、宿泊費等の費用がかかるのがネックといえ言えますが、夏期合宿や短期集中ゼミで勉強への考え方が大きく転換する生徒も少なくありません。

参加による効果は必ず何かに現れます。こういう行事を積み重ねていくことで、いつの間にか自分自身に「気づきと変化」が得られるということなのです。

最近注目しているのはPCを使った個別対応がかなり進化してきていることで、集中した「不得意克服」が全教科に渡って可能だということです。実は受験の最後まで引きずる不得意ですが、早ければ早いほど効果が出やすいものです。日常生活に埋もれた状態ではなかなか克服が困難です。受験学年になってからと考える方が多いのですが、早いほど効果は大きい…実際は、克服してしまっているために最初から「得意」のように見えている場合もある…。受験直前期は誰もが一生懸命になりますが、長時間学習に耐えられるスタイルは夏ごろに作らないと、結局最終盤での学習も空回りすることが多いのです。

合宿のはじめの頃、志賀高原のホテルの人たちは、黙々と勉強する都会の子どもたちをある驚きを持って見ていました。「えっまだ勉強しているの？」という感じです。その割に礼儀正しくちょっとした親切にきちんとお礼を言う生徒達にとにかくびっくりしていました。アレルギー対応や何やかやで、今では食事も我々の要望でビュッフェスタイルに変わり、バリバリ元気なおかみさんのホテルでは、2人の娘さんがパティシエであることから、今はデザートも充実しています。当時はまだ若かった娘さんたちがその後結婚をし、子どもができ、現在は小学生になっています。実は女将さんが最近は何とガラッと変わっていて、孫をそこからは遠い小都市の塾に通わせたりしています。やはり、孫が成績表を持ってくるようになって、他人事ではなくなると笑っていました。日本全国塾が張り巡らされ、学習への関心は高まっているのを感じます。受験があるのであれば、着実に勉強を積み上げていく必要があり、学びの質を上げていくことや不得意を克服するという「人の指導」が必要なものについて、夏は大きく改善するチャンスです。「安心ゾーン」にとどまり続けるところからは、前進は生まれません。「勇気ゾーン」に今は出ていくときと思います。